

ひびこれこうじつ

日々是好日

～上柴中便り～

『夢・志の実現』
自ら学ぶ生徒
心豊かな生徒
たくましい生徒

令和2年3月14日(土) 最終号
埼玉県深谷市立上柴中学校
TEL 048-573-7438

第36回卒業証書授与式 式辞

耳を澄ませば、そこかしこに春の躍動の足音が聞こえます。上柴中学校にも旅立ちの時がやってきました。今、ここに卒業証書を授与された193名の卒業生の皆さん、そして、保護者の皆様、ご卒業、おめでとうございます。晴れの門出を心より祝福いたします。

この晴れの日に、本来なら、多数のご来賓の皆様にご臨席賜り、卒業生を祝福していただくところですが、それは叶いませんでした。それどころか、そもそも卒業式自体が可能な限り縮小されました。これは新型コロナウイルスの感染リスクを式を短くすることで、少なくするためです。どうか、ご辛抱いただければと思います。ただ、今の、卒業生の皆さんの辛抱は、自分の為と共に、人の為、日本の為です。私がよく、皆さんに話してきた、「人の為に動ける人間になれ。」ということが体現できる時とと思ってください。人は成功や恵まれた生活からより、失敗や逆境から、大切なことを学びます。先日惜しまれつつ亡くなった野球で有名な野村克也氏も「失敗と書いて成長と読む。」と言っています。今、この逆境は自らを鍛える場だと思ってください。

さて、ただ今、卒業生の皆さん一人ひとりに卒業証書を渡しました。皆さんの名前が呼ばれたわけですが、その名前を担当の先生が呼ぶのは今日が最後です。もう中学生として皆さんの名前を呼ぶことはありません。この卒業証書は、皆さんが義務教育を終えたという証しです。その中には、皆さんの努力の成果とお世話になった人達の優しい思いが詰まっています。家族の愛情・優しさ、友達の励まし、先生方の応援などを受けて、皆さんは心身共に成長し、今、上柴中学校を巣立ちます。人が生きると言うことは、常に誰かに支えられ、お世話になります。一人で生きてはいけません。どれほどの人に、どれほどのことをしてもらったのでしょうか。夜泣きで寝つけなかった時、寝ずにあやしてくれたのは誰ですか。自分も仕事で遅いのに、早起きして、弁当を作ってくれたのは誰ですか。「這えば立て 立てば歩めの親心。」と言いますが、皆さんの成長を見守り、支えてきたのはうしろに座っている親御さんです。大きな愛情を注ぎ、皆さんの成長を願い、今日を心待ちにしてきました。心から「ありがとう」を言ってください。そして「支えられる人から、支える人」に成ってください。

皆さんは、3年前、桜舞う本校の正門をくぐり、そして、3年間、校訓である、「夢・志の実現」を目指し、仲間との絆を深め、前向きな学校生活を送りました。最上級生としての今年1年を振り返ると、本校伝統の20kmハイイクでは、空の青さと菜の花の黄色がとても印象的で美しく、ふるさとの良さを再発見しました。菜の花一杯の小山川沿いを歩いている時、思わず「おぼろ月夜」を友と口ずさむ生徒達を見て、その微笑まじさに感動しました。「願え平和、感じろ和の心！令和元年歴史と絆を探る旅」を合い言葉に、平和の大切さと歴史の偉大さを学び、絆を深めた修学旅行。One Teamを目指し「進時代！新たな旋風巻き起こせ！～熱き戦い上中（ここ）にあり～」を合い言葉に、各クラスが躍動した体育祭。伝統の上中ソーランは圧巻でした。音楽会は「Amazing voice～宇宙（そら）まで届け 我らのハーモニー～」を合い言葉に、文化会館に響いた美しい歌声に感動でした。さらに3年間、めげずに頑張った部活動など、今、皆さんと向き合うと、これらの行事での経験や人との関わりが、大きな財産となり、そのすべての活動が、下級生の手本であり、上柴中の伝統となりました。

私は、この1年、皆さんにラグビーから、人としての生き方を学んでほしくて様々なメッセージを送りました。二言目にはラグビーラグビーと、きっと耳障りだったことでしょう。でも、私は確信しています。戦った相手にさえ敬意を払い、常に相手を仲間とし、人として尊敬（respect）する「ノーサイドの精神」も、人の弱さと強さを認め合い、支え、励まし、磨きあうこと、全員が目標のため、一つになり、それぞれが役割を果たす、「One for all, all for one.の精神」も、自らの強みを人のために全うし、身体を張る「自己犠牲の精神」も、どれも人として大切な心の姿勢だということ。そして、何より忘れてならないのは、昨年ラグビーワールドカップで日本代表と日本中の人達が共有した感動と勇気、自信です。目標が大きければ大きいほど、壁が高ければ高いほど、同じ志を持つ仲間と気持ちを一つにOne Teamになること。それが叶えば、奇跡的な偉業をも達成できる。やればできる、思えば叶うということを実感したことです。

最後に卒業生にもう一つだけメッセージを送ります。それは、あの不世出の名選手、元ラグビー日本代表監督、ラグビーW杯の日本招致に尽力し、昨年のJapanの大活躍を見ずに、2016年、53歳の若さで、惜しまれつつ亡くなったMrラグビー平尾誠二氏の言葉です。彼は「理不尽に勝つ」という著書の中で、「人間は生まれながらに理不尽を背負っている。決して平等には生まれてこないからだ。でも、我々はそれでも生きていかなければならない。前に進まなければならない。自分が恵まれていないからと言って、恵まれている人をうらやんでも、むなしさが募るだけ。大切なのはいつも夢を持ち続け、理不尽に打ち克ち、夢を実現しようとする事、その過程にこそ、生きることの醍醐味がある。つい人のせいにしたくなるけど、それでは何も変わらない。状況を変えるには、自分自身が変わるしか、変えていくしかない。人は理不尽を経験すればするほど、鍛えられ、強くなる。そして、理不尽が大きければ大きいほど、打ち克った時の喜びは大きい。自分のプレーの未熟さを人の責任にする選手は、才能があっても、成長はない。（つまり、人のせいにせず、矢印は自分に向けるということ。）理不尽なことに耐えて、乗り越えられれば、それは大きな自信になる。」そう、彼は言っています。

ご列席の保護者の皆様、立派に成長されたお子様を前に感慨深くお慶びのことと思います。皆様の脳裏には、お子様の成長を見守り支えながら、今日のこの日を迎えるまでの様々な思い出が浮かんでいることでしょう。今までのご労苦に敬意を表しご卒業を心よりお祝い申し上げます。

結びにあたり、保護者の皆様の本校の教育に寄せられましたご理解とご協力に深く感謝いたしますとともに、卒業生の皆さんのご活躍とご多幸を願い、式辞といたします。

令和2年3月14日 深谷市立上柴中学校長 宮前 日出男

